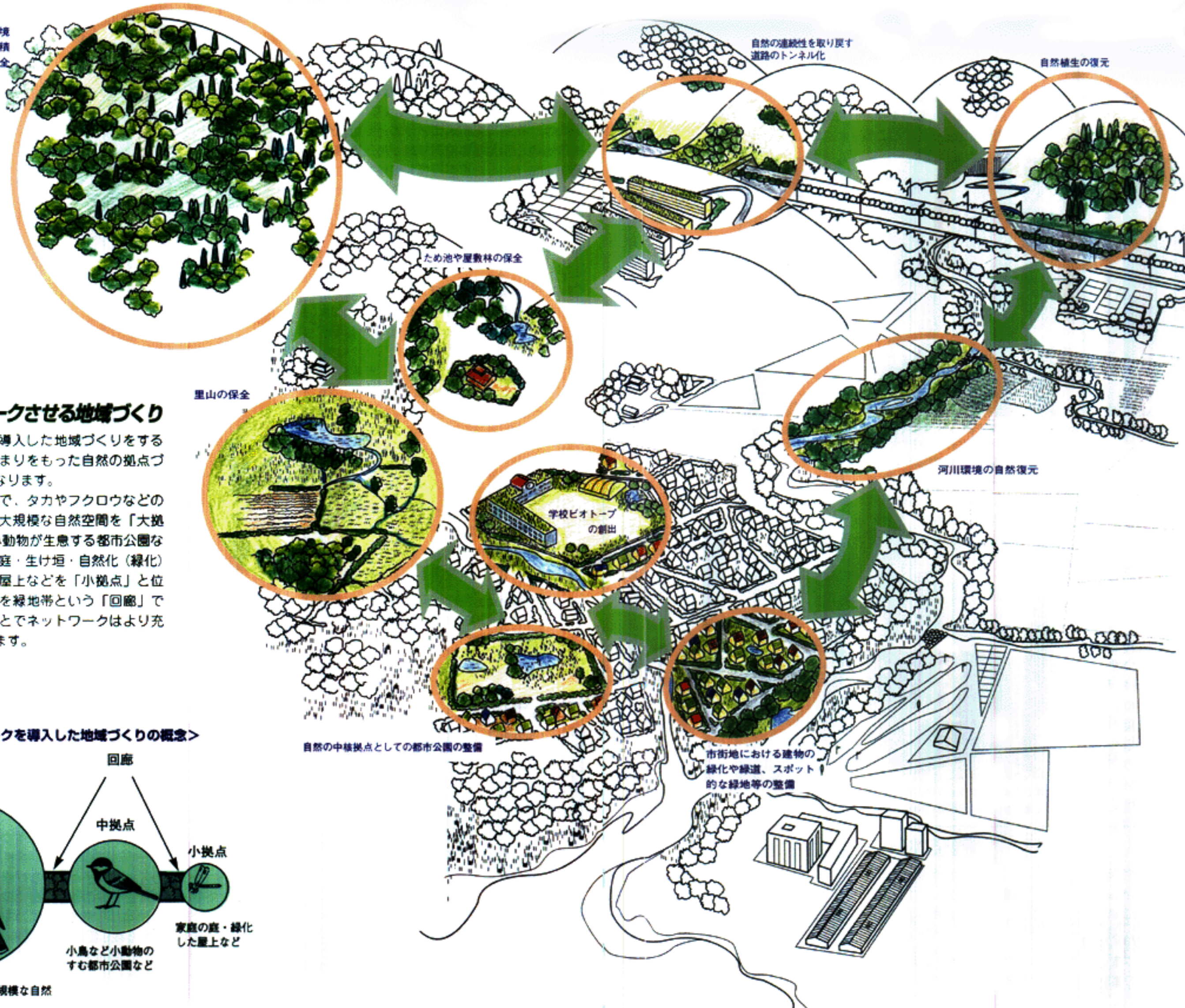


# 地域の自然をつなぐ

自然公園、自然環境保全地域等の大面積の自然環境の保全



道路に蓋をするように人工地盤をつくり表土をかぶせたり、生きものの通るトンネルをつくり自然の連続性を取り戻す。



学校の敷地などに地域の自然を復元しネットワークさせる拠点となる学校ビオトープは、環境教育にも役立つ。



河川の護岸を自然素材で行ったり、河川敷の自然を保全・復元することなどによって、生物の生息空間を確保する。



都市公園等において都市地域の自然を取り戻しネットワークさせることは、地域社会における自然との共生への足がかりともなる。



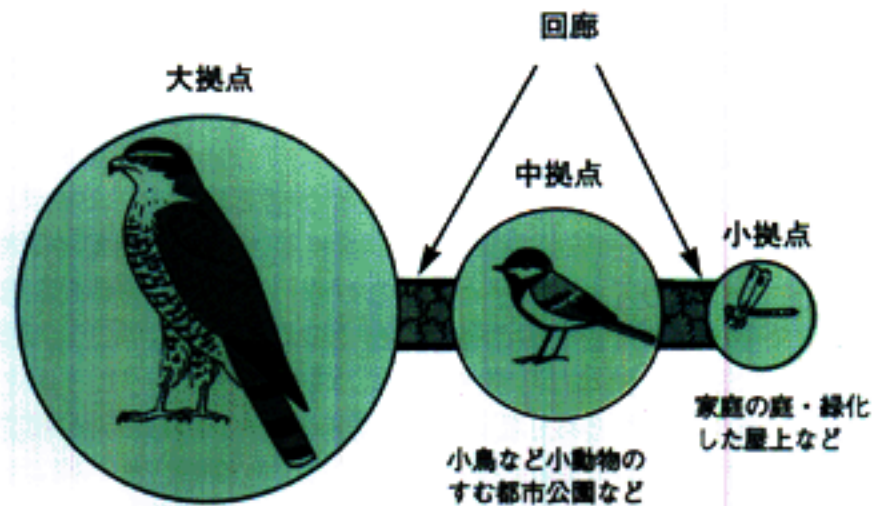
里地の谷戸やため池、水路など、伝統的な農村地域などにみられる、変化に富んだ二次的自然環境を保全・復元する。

## ●自然をネットワークさせる地域づくり

自然のネットワークを導入した地域づくりをする際には、ある程度のまとまりをもった自然の拠点づくりが大切なポイントとなります。

自然のかたまりのなかで、タカやフクロウなどの高次消費者が生息できる大規模な自然空間を「大拠点」、昆虫や小鳥などの小動物が生息する都市公園などを「中拠点」、各家庭の庭・生け垣・自然化（緑化）が施されたビルの壁面や屋上などを「小拠点」と位置づけ、これらの各拠点を緑地帯という「回廊」でつなげます。そうすることでネットワークはより充実し、まちに自然が蘇ります。

### <自然のネットワークを導入した地域づくりの概念>



高次消費者が繁殖可能な大規模な自然

小鳥など小動物のすみ都市公園など

家庭の庭・緑化した屋上など